

川崎市は中小零細企業支援予算の増額を



このまちとともに



5月3日ピースパレードに参加



町工場に固定費の直接補助を

市内製造業の事業所の73%は従業員9人未満の小規模事業者で、市内の「モノづくり」の基盤は多くの零細企業によって支えられています。技術があるのにコストダウンを迫られて経営が困難な現状が広がっている実態を示し、現状を支える支援策として工場の賃貸料や機械のリース代等「固定費」の直接補助に踏み出すよう求める質問に対し、経済労働局長の答弁は、従来の「新技術・新製品開発促進事業」や「産学共同研究開発促進事業」等にとどまりました。これら事業の2012年度実績は17社への支援にすぎず、多くの事業者が事業継続の危機にある実態を

地域経済が厳しい中、市内全企業の97%を占める中小零細企業への予算は融資を除くと4億2千万円余。コンテナターミナルの1基8億円の半分しか予算がついていません。市内中小企業支援予算をもっと拡充すべきです。

共産党市議団の
3月議会のとりくみ

町工場に固定費の直接補助を

住宅リフォーム助成制度の創設を

直視すれば、より広範な事業者への支援に踏み出すべきと主張しました。



大田区の担当者から説明を受ける



川崎市も市内の中小零細企業は優秀な技術力をもっています。しか

内医療期間から例えば手術に使うこんなものがつけないかという期待があつた。連携が始まり、成長が期待される分野であることから、太田区が取組を推進する医工連携支援センターを開設。同センターは「病院の先生と町工場のおやしの見合いの場」といわれています。共同事業として手術中に患者自身の心臓から心臓弁をつくり、心臓に縫い付ける画期的な大動脈弁形成術に不可欠な、弁の大きさを測定する器具などが生まれています。区内の中小零細企業のものづくりの優れた技術の土台の上に組み立てられた積極的な支援は着実に地元の利益につながっていると感じました。

4月18日、約4千軒の町工場が集積する大田区の中企業振興策「医療機関とモノづくり企業が連携した取組」を視察しました。

大田区の医工連携事業の取り組みと工場アパートを視察して



し、川崎市は先端産業の誘致やライフイノベーションの研究開発に多額な市税を投入していますが、市内のモノづくりの優れた技術を生かしつなげる積極的な産業戦略をもっていない。

工場アパートへの支援

また大田区は「住居の調和あるまちづくり」という観点から1階が工場で2階以上が住宅の『工場アパート』や地価高騰で資金力のない小規模企業では工場の購入が困難になったことから新規開業や工場移転の対策に賃貸型の『工場アパート』も建設し、全部で6カ所の工場アパートを支援しています。視察した「テクノFRONT森ヶ崎」は総工費38億円で5階建て、49全室工場です。50㎡程なら4万4千円（月額）334㎡程なら88万3千円という設定で、相場より1〜2割安いのも魅力です。川崎でも『工場アパート』のような支援策も必要だと思いました。

少人数学級の拡充で
ゆとりある教育を

新年度、安倍内閣は『少人数学級の効果は明らかでない』等と35人学級を小学1・2年生以上に拡充することを見送ってしまいました。少人数学級の必要性は学力の向上だけにとどまりません。大津のいじめによる痛ましい自殺を検証した第三者委員会は防ぐことができなかった要因のひとつに教師の多忙化をあげ、その改善を求めました。それをうけて滋賀県は新年度に中学3年生まで少人数学級を実施しました。川崎市でも少人数学級の効果について、教育長は、一人一人の学習状況を把握しやすい、個別指導を効果的に行うことができる。3年生になって標準学級（40人）に戻る時に生じるギャップが課題であるとし、加配教員や非常勤講師を有効に活用しながら教育環境の充実にも努めると答えました。国待ちにならず、こどもたちのために一刻も早く市独自で少人数学級の拡充に取組むよう求めました。

日本共産党 川崎市議会議員団

(放射線量測定 結果報告マップ 高津区版)

2011年6月から今年3月まで継続的に、
全市508カ所で放射線量測定を実施しました。



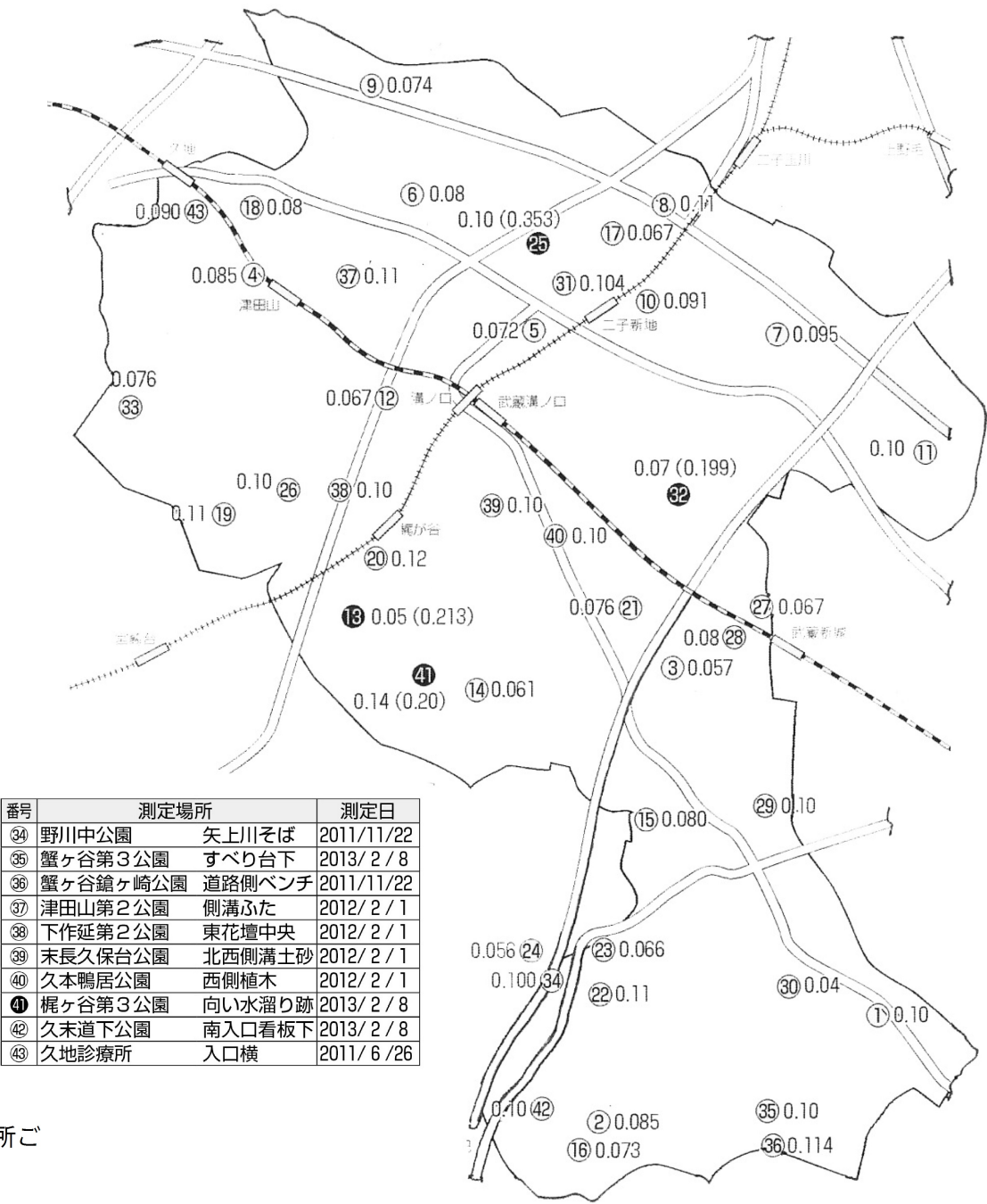
日本共産党川崎市議団は、2011年3月の福島原発事故を受けて、①市民から寄せられた要望にこたえ放射線量の実態を把握すること、②継続的に測定し放射線量の推移を明らかにすること、③測定結果をもとに対応を市に求めて果たさせることを目的に、同年6月から2013年3月にかけて、市内全域のべ508ヶ所で放射線測定を行いました。

これらの測定行動をもとに、日本共産党川崎市議団は合計8回の市長あての申し入れや市議会での質問などを行ない、市に、市内全域の放射線量調査とくに子どもの生活する場や施設などの線量調査と下げる対策、団体や市民への放射線測定器の貸し出し、給食食材をはじめ市場に出回る食材の放射能濃度検査の強化などを求めてきました。市はこの間、学校・保育園などでの線量測定、給食食材の放射能濃度測定、放射線測定器の貸し出しなどを実施しています。

日本共産党川崎市議団は今後とも、市民が安心して暮らせるよう活動をすすめるとともに、原発即時ゼロ、地域から再生可能エネルギーを普及する取り組みに全力をつくします。

- ▼この地図について
- 数値の単位はマイクロシーベルト／時。測定を行った公園等測定箇所ごとに、その箇所でも高かったポイントの放射線量（最新の測定日のもの）を記載しています。
 - 詳細は市議団ホームページをご覧ください。
 - 使用した測定器は（2011年11月27日まで）ALOKA PDR-101、（2012年1月14日以降）ALOKA TCS-172Bです。
 - 川崎市の対応基準0.19μsv以上を過去に記録した箇所は黒の丸数字（●）で示し、カッコ内に最高時の線量を記しました。0.19μsv未満は白の丸数字（○）で示しました。

番号	測定場所	測定日
①	橘公園 水飲み場付近	2013/2/8
②	県営久末アパート 2・3号棟間	2011/6/25
③	新作下耕地公園 中央	2011/6/25
④	こども夢パーク せせらぎ	2011/6/25
⑤	溝口南公園 中央	2011/6/25
⑥	久地梅林公園 文学碑側芝生	2013/2/3
⑦	東高津公園 すべり台下	2011/6/25
⑧	二子公園 かのご塔付近	2013/2/3
⑨	宇奈根グランド 中央	2011/8/18
⑩	大陸天公園 中央	2011/8/18
⑪	下野毛2丁目公園 ブランコ下	2013/2/3
⑫	下作延かつら公園 砂場	2011/8/18
⑬	梶ヶ谷第一公園 斜面下側溝	2013/2/8
⑭	市民プラザ すべり台下	2011/8/18
⑮	ふれあいの森 入口付近	2011/8/18
⑯	久末宮の谷公園 すべり台下	2011/8/18
⑰	三角公園 ブランコ下	2011/10/14
⑱	下作延北の谷公園 階段下	2013/2/3
⑲	向ヶ丘東公園 落葉だまり	2013/2/3
⑳	末長けやき公園 擁壁下	2013/2/8
㉑	末長宗田公園 ブランコ下	2011/10/14
㉒	野川東公園 ベンチ下	2013/2/8
㉓	野川第5公園 砂場	2011/10/14
㉔	野川中耕地公園 すべり台下	2011/10/14
㉕	溝口北公園 すべり台下	2013/2/3
㉖	不動ヶ丘公園 すべり台下	2013/2/3
㉗	末長東公園 中央	2011/9/16
㉘	新作第3公園 砂場	2013/2/8
㉙	千年新町公園 ベンチ下	2013/2/8
㉚	子母口旭田公園 すべり台下	2013/2/8
㉛	溝口緑地 側溝ふたそば	2011/11/22
㉜	坂戸公園 側溝ふた上	2013/2/3
㉝	上作延第4公園 入口水路そば	2011/11/22



番号	測定場所	測定日
㉞	野川中公園 矢上川そば	2011/11/22
㉟	蟹ヶ谷第3公園 すべり台下	2013/2/8
㊱	蟹ヶ谷鐘ヶ崎公園 道路側ベンチ	2011/11/22
㊲	津田山第2公園 側溝ふた	2012/2/1
㊳	下作延第2公園 東花壇中央	2012/2/1
㊴	末長久保台公園 北西側溝土砂	2012/2/1
㊵	久末鴨居公園 西側植木	2012/2/1
㊶	梶ヶ谷第3公園 向い水溜り跡	2013/2/8
㊷	久末道下公園 南入口看板下	2013/2/8
㊸	久地診療所 入口横	2011/6/26